



香芝西中学校だより ～信愛・創造・健康～

No. 1

校長室



緑がまぶしい、心地よい環境のなかで



本校は昭和57年（1982年）4月に、香芝市の2校目の中学校として開設され、今年で43年目を迎えることとなります。奈良県の中西部、大阪府との県境にあり、万葉集の歌にも詠まれている二上山の北麓に位置します。この時期、春の使いであるウグイスの鳴き声が聞こえる、緑豊かな小高い丘の上に学校はあります。所々に季節の花の鉢植えが並べられています。自然が豊かな環境で、時期によっては野鳥の鳴き声が聞かれ、野ウサギの訪問もあるようです。

立地条件による心地よい環境はもちろんですが、とりわけ、校内の花壇等の環境整備には、多くの方々による支援をいただいていることに感謝申し上げます。整った環境は当たり前のことではなく、誰かの手によってなされていることを忘れず、常に感謝の思いをもって学校生活を送ってみたいのです。

気持ちよい挨拶から一日が始まる



4月10日（水）に新生175名を迎え、全校生徒553名で令和6年度がスタートしました。今年は昨年より桜の開花が10日ほど遅く、校庭の桜も新生の入学を持っていたかのように感じられました。

毎朝、子どもたちの登校を昇降口で迎えておりますが、礼儀正しく挨拶をしてくれる子どもが多いことに感心しています。挨拶を交わすと清々しい気持ちになります。地域の人を含めた自分の周りの人に対して、自然な形で挨拶ができる人になって欲しいと思います。”挨拶”は将来、社会に出たときに必要なもので、習慣として身につけることは大切ですが、自分の心の在り方として身につけてもらいたいです。



感謝と信頼



登下校の安全は大丈夫でしょうか。特に自転車で通学している人は、下り坂でスピードを出しすぎることなく、安全に登下校するようにしてください。

小学校の時は、地域の方や保護者の方に見守られながら部団で登下校していたと思います。中学生になった君たちは、地域の方々が要所に立っていただいているなか、登下校しています。

「見守り」と「見張り」は違います。「見守り」は君たちが安全に注意しながら登下校ができることを信頼した上で、何か困ったことがあったらいつでも手助けできる準備ができている状態です。一方、「見張り」は君たちは目を離すといつ事故にあうかわからないから目が離せない状態、心配で信頼できない状態です。”見張られて登下校している”と感じている人は、誰も見張っていない時に安全を無視した危険な行動をとることがあるでしょう。

「人が見ているから」、「人に見られているから」を行為の基準にするのではなく、自分の考え、自分の判断、自分の責任で行動することが大切です。

暖かく見守っていただいている地域や保護者の方々に、感謝の気持ちを持ってあいさつができ、信頼される人であって欲しいです。